

あとがき

安威川流域は自然豊かな山間部と田園地帯からなるが、利水の苦勞や洪水の課題がつきまどってきた。神崎川の流域は瀬戸内海と都を結ぶ船運の要所として栄えた白砂青松の川筋であったが、近年は製紙工場をはじめとする工場が立地し、一時水環境が非常に悪化した時期があった。筆者らが大阪府の神崎川底質に堆積した高濃度ダイオキシン対策に関わった思い入れのある水域でもある。現在は環境改善が進み、水辺環境もかなり良くなっているが、今回、あらためてこの水域を歩き、川を中心とした人々の生活、文化と歴史の歩みを思い起こす機会となった。

執筆にあたって、当時の大阪府安威川ダム建設事務所の田中博氏、山岡豊氏により、安威川ダム建設現場及びその周辺地域をご案内いただきました。また、元吹田市役所の山本作治郎氏には、安威川・神崎川の見学に際し大変お世話になりました。併せて深謝いたします。

(公社)日本水環境学会関西支部川部会/服部 幸和・村岡 浩爾

参考文献

- ・茨木市観光協会「茨木市北部ハイキングマップ」、「茨木市南部散策マップ」
- ・茨木市役所(1978)茨木市史復刻版,840pp.
- ・大阪府安威川ダム建設事務所パンフレット「安威川ダム」
- ・大阪府安威川ダム建設事務所(2013)安威川ダムニュースVOL.18
- ・大阪府西大阪治水事務所パンフレット「番田水門」
- ・摂津市教育委員会発行(2004)摂津歴史スポット
- ・摂津市役所(1977)摂津市史,p.196
- ・摂津市教育委員会生涯学習部生涯学習課「郷土摂津いにしえ通信第90号」
- ・吹田市まちにぎわい創造館(2008)「吹田観光マップあろっく吹田」改版

既刊の紹介

- ・源流を行く 編 『名張川』(2013)『木津川上流』(2013)『高時川・余呉湖』(2014)『桂川・由良川源流』(2014)
- ・おうみの川 編 『赤野井湾と流入河川』(2013)『安曇川』(2015)
- ・みやびな川 編 『白川』(2010)『鴨川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013)『京の川』(2014)『高野川』(2015)『伏見の川・醍醐の川』(2015)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013)『天野川』(2015)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)『中河内の川』(2013)『大川と大阪市内河川』(2013)『寝屋川』(2015)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
〈企画編集〉(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(一社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

~ちょっと大人の散策ブック~ 〈歴史とロマンの川〉

安威川・神崎川 (Aigawa・Kanzakigawa)

(発行)平成28年2月

(発行者)公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)
TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036
<ホームページ> <http://www.byq.or.jp/>
散策ブックはホームページ上で閲覧することができます

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、寄付へのご協力・賛助会員のご入会をお願いしております。載いた会費・寄付金は、当機構を通じ琵琶湖・淀川流域の水質保全に活かされます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

~ちょっと大人の散策ブック~

歴史とロマンの川 編

安威川・神崎川

(Aigawa・Kanzakigawa)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(一社)近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(一社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、それぞれ5、6のリーフレットからなる、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、本リーフレットでは、歴史とロマンの川編として、大阪府北摂地域を流れる安威川、神崎川を取り上げた。

本ブックのシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

ねらい・目次	
安威川・神崎川の概要	02
安威川上流域	03
コラム1 深山水路と周辺の自然環境	04
安威川下流域	07
コラム2 井路と排水	08
神崎川	09
コラム3 泉殿宮とアサヒビール	11
コラム4 安威川・神崎川の水質	14

CONTENTS

(表紙写真／安威川河川敷)

1 安威川・神崎川の概要

安威川の起点は大阪府の北摂地域にあり、京都府亀岡市尾ヶ尾山付近や高槻市檜田地区を水源としている。京都府域の山間の農村地域を流れる東掛川、栢原川が高槻市域から流入する二料谷川(河川名としてはここから安威川とされている)と合流して始まる。上流域は特に自然環境が豊かな土地であり、ハイキングコースや史跡も多い。高槻市、茨木市、摂津市、吹田市、大阪市を流下し、その間、下菅羽川、茨木川(佐保川、勝尾寺川)、山田川、大正川、正雀川を合流しながら大阪市東淀川区の相川、吹田市高浜地先で神崎川に合流する。流域面積

約163km²、河川延長約32kmの一級河川である。この流域では、昔からたびたび洪水の被害を受けてきたので、その対策として安威川ダムが建設中(2021年度末完成予定)である。

神崎川は、淀川右岸鳥飼大橋の少し下流にある一津屋樋門から導水されることから始まる。流域面積は約627km²、河川延長約21kmの一級河川である。神崎川は安威川と合流したのち、ゆったりと蛇行しながら、左岸側の大阪市東淀川区、淀川区、西淀川区、右岸側の吹田市、豊中市、尼崎市を経て大阪湾へと下る。その間、市街部、下水処理場、ごみ焼却場や各種工場群を両岸に見ながら、猪名川を合流したのち、左門殿川、中島川、西島川に分流しながら大阪湾へと注ぎ込んでいく。神崎川は、奈良時代の末期に和気清麻呂によって淀川と瀬戸内海を直結するために開削され、大阪湾と都を結ぶ神崎や江口などの港をはじめとする繁栄の名残が所々に見られる。それでは、散策に出かけてみよう。



安威川・神崎川流域図



2 安威川上流域

安威川の源流は、京都府亀岡市から東掛川、栢原川として山間の農村地域を流れ、高槻市域から流入する二料谷川を含めた安威川と合流する。二料には古い酒蔵を利用した趣きのある二料山荘があり、周辺は6月頃ゲンジボタルやヘイケボタルなどが飛び交う蛍の里となっている。

京都府と大阪府茨木市の府境付近では、溪谷の兩岸に採石場が林立しており、周辺は白煙がもうもうと舞い上がっている。下音羽川を少し遡れば、深山水路(コラム1参照)があり、周辺には東海道自然歩道をはじめとする多くのハイキングコースがある。大門寺地区には、開成皇子(桓武天皇の兄)の開基とされる大門寺があり、本尊の聖如意輪観世音菩薩、並びに四天王像は、平安末期の仏像で、国の重要文化財に指定されている。

大門寺の東、安威川の左岸側には阿武山(標高281m)がある。中腹には国の史跡阿武山古墳があり、近くに京都大学阿武山地震観測所がある。



二料谷川(右)と栢原川(左)の合流点



二料山荘



大門寺



桑ノ原橋



阿為神社



西河原公園



安威川・茨木川合流地点付近

安威川は、下音羽川と合流後、ダム建設地の^{くるまつり}車作、^{しょうぼ だいもんじ くわのほら}生保、大門寺、桑原地区などの山間部を経て安威地区で平野部に向かう。桑原地区にある桑ノ原橋は、安威川の最上流環境基準点である。

桑ノ原大橋より約800m南の花園山に阿為神社がある。安威地区は、中臣氏にゆかりが深く中臣藍連が初めてこの地に来て、祖神を祀ったとされる。この神社で中大兄皇子(天智天皇)と中臣鎌足の^{あいのむらじ}大化改新の首謀者が蘇我氏に対してクーデターの密談を繰り返したと伝えられている。

名神高速道路、国道171号線をくぐった後、安威川は茨木市西河原付近で茨木川と合流する。合流点直前の安威川左岸側には西河原公園が広がり、安威川河川敷を含めて従来からの樹木、竹やぶ、用水路を生かした自然豊かな公園となっている。

コラム① 深山水路と周辺の自然環境

江戸時代、1740年頃車作村では、高地の田畑への用水の便が悪く米作りに苦勞していた。村の庄屋畑中権兵衛(晩年 権内)は、自力で延べ2,200mにも及ぶ測量をし、約20年かけて水路を完成させた。安威川の水を上流で横から取水するのは、下流の村々の了解を得ることは難しいので、出来上がった水路を木の枝や枯葉などで覆い隠しながら工事を進めたと伝えられる。この水路を深山水路(または権内水路)といい、田畑は潤い、飲料水の源ともなり、車作地区周辺は自然と人が共存した里山として繁栄した。自然環境が豊かで、オオタカ、オオムラサキ、オオサンショウウオ、アジメドジョウ、オグルマなど4,000種以上の動植物が確認されている。

安威川ダムの建設による環境への影響をできる限り抑えるために、大阪府によって「安

威川ダム自然環境保全マスタープラン」が策定された。これに基づいた動植物、水質・流量観測の調査と環境保全対策が行われている。



深山水路



深山水路案内板

西河原公園の東には、名神大社として式内社の中でも最高の社格を誇る**新屋坐天照御魂神社**（西河原）がある。すぐ南に**磯良神社**があり、通称**疣水さん**の名で親しまれている。境内には玉ノ井という井戸があり、「摂津名所図会」にも記載されている名水である。その昔、神功皇后は、三韓征途の折「玉ノ井」で顔を洗われると顔中にイボができ、いかめしい男のような顔をして出陣された。戦果をおさめて帰国後、再びこの水で顔を洗われると、イボが取れて元のきれいな顔に戻れたという話が伝えられ、今もお参りする人が多い。

JR東海道本線の南、阪急京都線総持寺駅の西には、西国22番札所高野山真言宗補陀洛山**総持寺**がある。本尊は千手観音である。総持寺は、藤原山陰卿が幼い時に淀川に落ちた際に、かつて父が観音様の縁日に助けた大亀により救われたことから、成長して総持寺を建立したとされる。この縁により本尊は亀の背に乗っている。また、総持寺本尊建立の際に、仏師に千日間毎日違う料理を饗したことから、全国の調理師の信仰を集め、毎年山陰流包丁式が行われている。

茨木川の上流は**佐保川**と呼ばれ、茨木市中河原町付近で**勝尾寺川**と合流した後、茨木川となる。幣久良橋を西へ勝尾寺川沿いに西国街道を進み、国道171号線を南へ超えると**郡山宿**がある。西国街道は京都と西国を結ぶ重要な陸路であり、江戸時代には、西国大名が参勤交代の際によく利用した5つの宿場（山崎、芥川、郡山、瀬川、昆陽）があったが、郡山宿は唯一、本陣が現存し、浅野内匠頭も宿泊したといわれる。門内の椿の木が五色の花を咲かせたことから「椿の本陣」とも呼ばれ、国の史跡となっている。

茨木川は、1941年までは、現在の合流点より少



新屋坐天照御魂神社 (西河原)



磯良神社



総持寺山門



郡山宿本陣



茨木川



元茨木川緑地



茨木童子の像



茨木神社本殿



茨木市立川端康成文学館



安威川ダム情報交流センター
ダム立体模型



建設中の安威川ダム (手前ダム軸表示)
大門寺付近より

し上流で向きを変えて南下し、摂津市内で安威川に合流していたが、度重なる洪水の被害のため、現在の地点で安威川に合流させることになった。付け替えにより、南下していた茨木川は1949年に廃川となり、市内を縦貫する道路（川端通り、桜通り）および**元茨木川緑地**として整備された。長く続く桜並木は市民の目を和ませ、春には桜まつりが行われている。茨木市役所東側の高橋の欄干には、地元の民話にでてくる酒呑童子の家来、**茨木童子の像**があり、その東には**茨木神社**がある。境内には、豊臣秀吉が好んで茶の湯に使用したとも言われる黒井の清水という井戸がある。川端通りには茨木出身の文学者川端康成を記念した**茨木市立川端康成文学館**がある。また、茨木川に面した緑地の北端には、**安威川茨木川合流点の碑**がある。

安威川の流域は、山地約70km²、その他90km²は丘陵地か低平地からなり、昔から水害が多く、1967年7月には北摂豪雨が起り、死傷者61名、浸水家屋約2万5千戸等の被害を受けた。さらに1983年、1999年にも水害があり、市街地でしばしば洪水の被害がでた。これらの北摂豪雨を契機に安威川ダムの建設が計画され、100年に1回の大雨に対応するように河川改修およびダムによる治水手法が選択された。

茨木市大住町にある大阪府安威川ダム建設事務所内には、ダムの立体模型などによりダムの必要性を知ってもらうため、**安威川ダム情報交流センター**が開設されている。完成後のダム本体は中央コア型ロックフィルダムで、堤高76.5m、堤頂長337.5m、堤体積222.5万m³、貯水池の集水面積52.2km²、湛水面積(大雨時)81ha、総貯水容量1,800万m³(内訳:洪水調節容量1,400万m³、不特定利水容量240万m³、堆砂容量160万m³)となる。

3 安威川下流域

茨木川合流後の阪急茨木市駅の北東約700mに、安威川^{せんざい}千歳橋(環境基準点)がある。ここから堤防沿いに続く安威川河川敷公園は、春には菜の花の絨毯と美しい桜並木などのどかな風景が続く。流れは、東海道本線、阪急京都線をくぐった後、野々宮付近で南西方向に向きを変える。この付近で安威川の南に隣り合って番田水路や三箇^{さんか}牧水路などの排水路(コラム2参照)が東海道新幹線の北側を並走している。これらの水路は井路とも呼ばれ、農業用排水路として開削されたものであるが、現在では下水処理場の排水も流されている。右岸には大阪府中央卸売市場、食品流通センターがあり、次の環境基準点宮鳥橋へと至る。この付近から鳥飼水路も並走に加わり、右岸側には北大阪流通センター、安威川流域下水道中央水みらいセンターが続く。左岸側には新幹線鳥飼基地があり、隣接する新幹線公園前の桜並木は美しい。

安威川は、近畿自動車道をくぐる少し手前で大正川と合流する。合流点付近の大正川の両岸には、摂津市環境センターと摂津市役所がある。安威川を渡る近畿自動車道の鶴野橋の上には大阪モノレールが走っている。橋上を横断しながら安威川本流、番田水路、鳥飼・三箇牧水路の流れが順次眺められる。番田水路等は山田川との合流地点付近から安威川の南西側に少し離れ、吹田市域との境付近で再び安威川に隣接して流れる。

安威川橋、籠ヶ橋を渡った西側の摂津市別府には味府神社がある。この神社は元、鱒生神社と称し天照大御神・若一王子・八幡大神が祀られていた。785(延暦4)年長岡京遷都に伴い、神崎川



安威川千歳橋付近



安威川と阪急京都線



番田水路(落合橋付近)



鳥飼三箇牧水路と桜並木



大正川と摂津市役所(右)、環境センター(左)



安威川鶴野橋とモノレール



伏越樋門跡



味府神社



味舌天満宮

(旧三国川)が開削される際に天照大神を現在地に祀り、若一王子を淀川右岸の一津屋の味生神社に、八幡大神を新在家の八幡宮に移したとされる。道路を隔てた東に伏越樋門跡がある。これは江戸時代初期に別府・一津屋・新在家の三村が村内の溜水を安威川の下をくぐらせて(伏越して)神崎川へ放流した樋門の跡である。

安威川橋の北、山田川沿いに大阪府指定有形文化財の味舌天満宮がある。味舌は、織田信長の弟で茶道有楽流の開祖である織田有楽斎の領地でもあった。安威川は、安威川橋下流地点で正雀川と合流後、阪急京都線の相川駅西にある安威川最下流環境基準点新京阪橋の約500m下流で神崎川に合流する。

コラム② 井路と排水

大阪府東北部の高槻市南部、茨木市東南部及び摂津市の区域は、従来から淀川の氾濫と悪水(農業排水)の停滞に苦しんだ低湿地帯である。安威川と淀川に挟まれたこの地域では、井路と呼ばれる番田水路、三箇牧水路、鳥飼水路などの排水路により、悪水が安威川、神崎川に排除されてきた。これらの井路は湿田の米づくりには欠かせないもので、井路舟が浮かび、農道を行く軽トラックのように肥料や稲を運んでいた。井路舟は淀川決壊時には避難に欠かせない家財道具であった。少し南のモノレール南摂津駅の構内には井路舟が展示されている。

また、安威川の北部の地域も北川水路、権保(ごんぼ)水路、鶴野水路等により安威川、番田、三箇牧水路に排水しているが、豪雨時には安威川の水位が上昇し各水路の排水能力の低下により浸水が起きてきた。

このような状態を打開するため、1963~68年に大規模かんがい排水事業として、排水路の改修や逆サイフンの設置などにより悪水排除機能の改善が行われた。



番田水路(左)と鳥飼三箇牧水路(右)



井路舟の展示

4 神崎川

摂津市一津屋の淀川右岸のスーパー堤防を駆け上がると、堤防の上からは淀川を取り巻く周辺の雄大な眺めが見える。少し上流には鳥飼大橋が眺められる。淀川河川公園内に一津屋樋門があり、淀川の水が導水されて神崎川が始まる。神崎川はここから直線的に西へ安威川との合流点まで流れる。一津屋周辺には、大阪広域水道企業団三島浄水場、一津屋取水場、神戸市や尼崎市の水道局の取水場がある。

江口橋の少し東から味生水路が並行して流れ、西江口橋から北江口橋あたりまで汚水の浄化のために神崎川水質浄化施設が設置されている。北江口橋地点で番田水路が神崎川に流入している。番田水路流域は、上流の一部を除いて、女瀬



淀川と一津屋樋門



神崎川への導水



味生水路



番田水門



江口の君堂・寂光寺



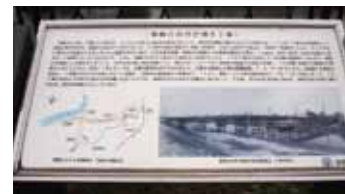
安威川(左)と神崎川(右)の合流点



吹田の渡し跡



高濱神社



神崎川付け替えの案内板

川、芥川、淀川、神崎川、安威川の堤防に囲まれた低湿地で、古来から洪水に悩まされてきたが、2006年度に神崎川への流入地点に番田水門が設置され、神崎川の河川水位が高いときには、強制的にポンプによる排水ができるようになった。

神崎川右岸側の東淀川区南江口には、江口の君堂・寂光寺がある。ある時西行法師が時雨に会い、江口の君に雨宿りを乞うたが断られた。そこで法師が歌を詠んだところ彼女も詠み返し、ついに一夜を明かしたと伝えられる。

北江口橋から1km西で神崎川は安威川と合流する。合流地点手前の安威川上高浜橋上流側に摂津名所図会に描かれた「吹田の渡し」の案内板がある。少し下流の高浜橋付近には「神崎川付け替え」の案内板がある。安威川下流は古来三国川(現在の神崎川)と呼ばれ、淀川とは別の水系であった。和気清麻呂は、長岡京遷都に伴い785(延暦4)年に、江口付近から淀川を北に分流させ、摂津市別府付近から西に大きく曲がって安威川に合流させる水路を開削し、淀川と直結させて瀬戸内海につなげた。これにより、神崎川は、西国からの物資輸送の主要なルートとなり、吹田市は江口や河口部の神崎、蟹島(加島)などとともに、淀川舟運の拠点の一つとして発展した。

しかし、神崎川が大きく曲がって安威川に合流することが水害の原因となっていたことから、1878年に内務省の土木技師、オランダ人デ・レーケの指導により一津屋から西に向かって直線的に吹田村の御旅島まで新河道が開削され、現在の神崎川となった。神崎川の右岸はその昔、高濱の森といわれ白砂青松の地であった。その中心に高濱神社があり、境内にある「鶴の松」の古株は当時の名残とされる。

高浜橋から吹田大橋にかけて高浜防災船着場がある。この付近に神崎川アドプト・リバー・水鳥の標示があり、神崎川河川敷で鳥、魚、そして多くの人が集まることを願って、神崎川畔企業連絡会が清掃美化活動を行い、榎木橋付近まで水鳥の道と名付けられている。右岸には緑豊かな中の島公園があり、ジョギングやウォーキングが盛んである。



大の木と吹田殿跡



高浜防災船着場



水鳥の道



中の島公園

コラム③ 泉殿宮とアサヒビール

吹田には、三名水があると言われている。佐井の清水、垂水の瀧、そして泉殿の霊泉である。泉殿宮は阪急千里線吹田駅の東北側にある。869(貞観11)年、旱魃、疫病が流行した際に、建速須佐之男の大神(たけはやすきののおのおかみ)の御神輿が立ち寄り、大神に嘆きを告げたところ、忽然と清水が土中より湧き出たと伝えられる。この雨乞いの状と雨を喜ぶ童子の姿は、吹田市地域無形文化財の「泉殿宮神楽獅子(いづどのぐうかぐらじ)」の所作になっている。

1889(明治22)年、泉殿の霊泉をドイツのミュンヘンに送って調べた結果、ビール醸造に適していることがわかり、神社の東側の隣接地に東洋初のビール醸造工場、大阪麦酒株式会社(現アサヒビール(株)吹田工場)が建設されることになったといわれる。近隣

の都市化に伴い、現在、霊泉は湧いていない。アサヒビール吹田工場の工場内には、大正時代のレンガ造りの建物が残っており、ゲストハウスでは見学、試飲ができ、エントランス前に竣工当時の建物の壁がほぼそのまま移設されている。



泉殿宮



泉殿霊泉



旧西尾家住宅



四腰掛



茶室



新三国橋となにわ自転車道



モスリン大橋

吹田大橋の北には、^{だいのきみょうじんしゃ いづどのぐう}大ノ木明神社(泉殿宮の御旅所)があり、鎌倉時代の貴族西園寺公経の別荘^{すいたどの}吹田殿跡の石標が立っており、樹齢700年余りの大きなムクノキの古株が残っている。

少し北の内本町には吹田市で唯一の重要文化財、**旧西尾家住宅**(吹田文化創造交流館)がある。江戸時代、吹田村は幕府直轄領・旗本竹中領・旗本柘植領と三方の支配に分かれ、西尾家は18世紀初頭より上皇の所領地である仙洞御料方の庄屋を務めていた。この伝統を受け継いで明治中期から昭和初頭にかけて建築され、数寄屋風を意識した主屋、茶道藪内家の指導になる茶室、桂離宮にある卍亭にならった四腰掛、牧野富太郎の関与が伝えられる温室、著名建築家武田五一が和洋折衷の意匠を試みた離れなど多彩な建物からなり、文化性に富む優れた建築が伝えられている。

神崎川は吹田大橋からゆったりと蛇行しながら流れ、左岸側で糸田川、高川、天竺川が流入する。さらに、吹田市の川面、^{かわづら}南吹田、大阪市の十八条などの下水処理場や種々の工場が立地している。左岸側には、大阪市旭区赤川付近を出発点とし、一津屋から下流の出来島付近まで「**なにわ自転車道**」が走っている。阪急宝塚線のやや下流に環境基準点新三国橋がある。

大豊橋を過ぎると大阪市加島と兵庫県尼崎の間に^{もすりん}モスリン大橋が架かっている。モスリンはやわらかい毛織物で、高級着物の生地として江戸時代から輸入され、明治時代には日本で初めてモスリン紡織会社の中津に設立された。大正時代に生産された安くて良質なモスリンを積んだ運搬車が往来することから名づけられたという。山陽新幹線と出会うあたりで猪名川と合流する。

また、加島の毛斯倫橋の南には、雨月物語の作者として知られる江戸時代後期の読本作者上田秋成ゆかりの加島稲荷(現、**香具波志神社**)がある。秋成が子供の時に疱瘡を病み、祈願して本復したと伝えられる。境内には**上田秋成寓居**、**加島鑄銭所跡の碑**がある。墓は神社の北側にある。神崎橋を過ぎ、東海道本線(JR神戸線)を過ぎると、流れは二手に別れて**左門殿川**に分流する。



香具波志神社



上田秋成寓居跡、加島鑄銭所跡



田藪神社



佃漁民ゆかりの地の碑



大野川緑陰道路

神崎大橋を北へ渡り、左門殿川と神崎川に挟まれた中洲の佃には、**田藪神社**があり、境内には**佃漁民ゆかりの地の碑**がある。天正年間(1573-1591)に徳川家康が摂津多田神社に参詣しようとした時に佃の漁民が協力して船渡した功により税金免除などの特典を与えられた。これが縁となり漁民の一部が江戸鉄砲洲に移住し、江戸に「**佃島**」の地名が残るきっかけになったと伝えられている。

神崎大橋の南、大阪市西淀川区歌島2丁目から百島2丁目にかけて**大野川緑陰道路**がある。かつて、大野川筋は神崎川と新淀川を結ぶ約6kmの川筋で、北から阪北水路、中島大水道、大野川と続く西淀川の中心部を横断する船運、かんがい、利水、治水の中心であったが、地盤沈下や風水害、河川汚濁等により、1971~72年に埋め立てられ、跡地利用として散策道路、サイクリング道路が整備された。高木1万本、低木12万本の100種類の樹木があり、30種類の薬用植物も植えられている。

西淀川区大野には**大野下水処理場**があり、道路を隔てて北側には「**大野せせらぎの里**」がある。安定池を含め9,700m²の面積池の周囲には常緑樹や落葉樹が植えられ、遊歩道やメダカなどが放流され快適な水辺環境が整備されている。



大野せせらぎの里



西島川淀川合流点



矢倉緑地と大阪湾

北に少し行くと神崎川**出来島大橋**、さらに中島川**中島大橋**があり、左門殿川**辰巳橋**へと続く。辰巳橋は最下流の環境基準点である。その後、神崎川は分派して、一方は左門殿川と合流し**中島川**に、一方はさらに神崎川と**西島川**に分派し、西島川は淀川に合流したのち、それぞれ大阪湾へと至る。

神崎川と淀川に挟まれた矢倉地区は1970年代に産廃処分場として利用されていたが、先端部を**矢倉緑地**として大阪市内で唯一、コンクリート護岸を持たず、貴重な自然景観を有する海辺に整備された。神崎川側には干潟が、淀川、大阪湾に面して潮だまりがある。野鳥観察所や芝生広場などもあり、釣り人が見られ、晴れた日には、大阪湾を臨む気持ちの良い場所である。

コラム④ 安威川・神崎川の水質

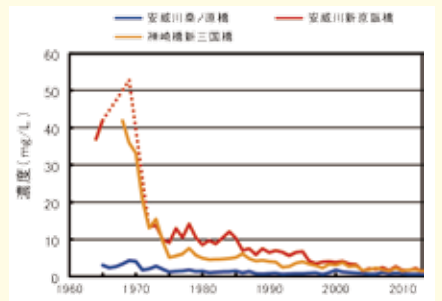
安威川、神崎川の環境基準点である上流部の安威川桑ノ原橋、神崎川合流直前の新京阪橋、神崎川新三国橋における水質の推移を示した。

桑ノ原橋の水質をBOD値でみると、1960年代後半で3~4mg/Lであったが、その後徐々に低下し2000年に入って1mg/L以下の清浄な水質になっている。新京阪橋では、1960年代には40~50mg/Lと高かったが、その後急激に低下し1~2mg/Lになった。同様に最下流の新三国橋でも30~40mg/Lと高値を示していたが、2mg/L以下に低下している。

1960年代以前、安威川下流及び神崎川では製紙会社や化学工業などが立地し、高濃度の工場排水が流入し水質が著しく悪化していたが、排水規制の強化や下水処理場

の普及等により急速に水質が改善された。

また、2000年代に河川底質のダイオキシンによる汚染、特に新三国橋周辺から下流にかけて高濃度汚染が判明し、上流の流入水路の原因究明調査や底質の浄化対策がなされて、改善が進んでいる。



安威川桑ノ原橋、同新京阪橋、神崎川新三国橋におけるBOD年度平均値の経年変化